



名家手簡  
四集  
上

手 46  
259  
7



門子 6

四

集

香雪先生鈞摹

名家手簡

天寧閣藏板



名家手簡四集目錄

上卷

山崎闇齋

佐藤剛齋

三浦梅園

赤松滄洲

澤村琴所

伊東藍田

下卷

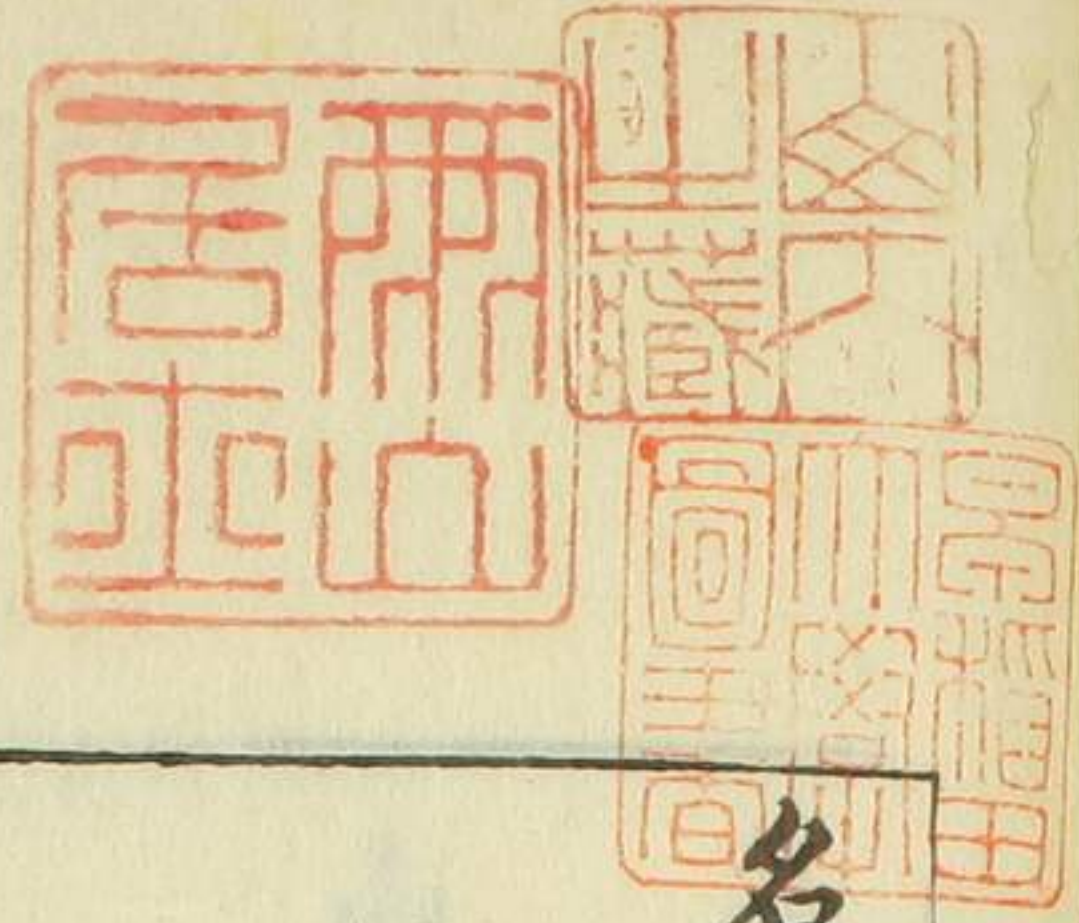
吉川惟足

三宅尚齋

中島浮山

平野金華

關松窓





松尾芭蕉  
水間沾徳  
高嵩谷  
釋乘淳  
高頤齋  
関鳳岡

寶井其角  
英一蝶  
角倉素菴  
伊藤華岡  
岳玉淵

山崎闇齋

名嘉字敬義号岳加晚号似功通稱嘉右衛門  
平安人天和二年卒六十五  
會津西郷氏藏

之  
之  
之

山部國香

海子以  
之  
律  
志

三  
破  
本  
心  
心  
心

一 宿おのりし  
一 成りし事と  
一 尺に  
一 一  
一 一  
一 一  
一 一

一 宿おのりし  
一 成りし事と  
一 尺に  
一 一  
一 一  
一 一  
一 一

友行記  
のり中言  
ふのり  
しりしり  
しりしり

吉川惟是

号湘山隱士住江戸以神道聞又能和歌  
別号視吾堂

全

有笑友也  
今唯又  
此

之  
行  
行  
之  
行  
之  
行  
之  
行

之  
行  
行  
之  
行  
之  
行  
之  
行

Handwritten text in cursive style, likely a signature or a short passage.

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.

佐藤剛齋

名直方通稱五郎左衛門備後福山人  
享保四年辛七十一

安藤龍淵藏

Handwritten text in cursive style, likely a signature or a short passage.



一  
 何  
 末  
 千  
 尸  
 之  
 如  
 外

此は...  
 七...  
 尸...  
 之...  
 如...  
 外...

一  
 千  
 与  
 流  
 中  
 何  
 安

千...  
 与...  
 流...  
 中...  
 何...  
 安...

批判するに及ばぬもの  
説くべきものも  
とて海を渡る大船  
に乗りぬるとも  
知らず海を渡る  
はるかに  
六つ  
之をあらわす

之をあらわす  
はるかに  
六つ  
に乗りぬるとも  
知らず海を渡る  
とて海を渡る大船  
説くべきものも  
批判するに及ばぬもの  
一

ト人々しし今も昔も  
おろしき油にひきまじりし  
油のこぼれも油の  
のこぼれも油のこぼれ  
ともしも  
おろしき油にひきまじりし  
油のこぼれも油のこぼれ  
ともしも  
おろしき油にひきまじりし  
油のこぼれも油のこぼれ  
ともしも

一あきしし人々  
おろしき油にひきまじりし  
油のこぼれも油のこぼれ  
ともしも  
おろしき油にひきまじりし  
油のこぼれも油のこぼれ  
ともしも  
おろしき油にひきまじりし  
油のこぼれも油のこぼれ  
ともしも

三宅尚齋

名重固字實操小字儀右衛門後更丹治  
播州人

全

うき世に  
うき世に  
うき世に  
うき世に  
うき世に

うき世に  
うき世に  
うき世に  
うき世に  
うき世に  
うき世に  
うき世に  
うき世に

了る事なきに  
了る事なきに  
了る事なきに  
了る事なきに  
了る事なきに  
了る事なきに  
了る事なきに

了る事なきに  
了る事なきに  
了る事なきに  
了る事なきに

敬請 称乃以  
重太郎

冀順之戒之  
厚重乃德黃  
尚無疆受天  
慶

三宅重固

三浦梅園

名音字安貞一號寧山又洞仙豐後杵築人  
寬政元年辛六十七

龜齡軒

子之入之為  
海之好之為  
如之好之為  
碑之好之為



仁齋門人

中島浮山

名義方字正佐一號納所京師人

仁齋門人

中島浮山

名義方字正佐一號納所京師人  
仁齋門人

孝林油八之山力  
 与野象在徳為作龍  
 地お月元三年上京之  
 由人吐活中活外統在  
 子田に向之牛上今



此江之無系如之人也  
 亦未之乞惟之世百牛  
 之月汝亦之也  
 之也子作以元身為知  
 彼可之汝又亦之或人未  
 明下  
 上月動  
 正地  
 英庵記

赤松滄洲

名鴻字國鸞通稱大川良平播州人赤穂屋記室  
 享和元年辛八十一  
 家藏

時之長風濕而枯  
 河清獨之舟  
 子之遊子病中  
 汝身之下方

此後之病漸愈活至之  
部之にお無仕之書本  
憶事視仕之書を以我  
そ先又暫お留身  
るしとておんてお少少掛  
てしとらるる部の  
代知活續おたおとる

病漸愈  
活至之  
部之にお無仕之書本  
憶事視仕之書を以我  
そ先又暫お留身  
るしとておんてお少少掛  
てしとらるる部の

未解其意。傳經者  
子中其後。以爲其  
故之端。

五ノ中ノ七

大川三平

宗師之義

平野金華

名玄中字子和通稱源右衛門陸奥人守山侯記室  
享保十七年辛四十五

今之  
流  
成  
好  
其  
其  
其

Handwritten calligraphy in cursive script (sōsho) within a rectangular frame. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page.

之調相矣 亦亦亦

澤村琴所

名維顯字伯陽号松雨亭通稱九内  
元文四年辛五十四

Handwritten calligraphy in cursive script (sōsho) within a rectangular frame. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page.

復理之民也

東一也

本 大藏院

関松窓

名脩齡字君長通稱永一郎東都人業儒  
享和元年卒

家藏

以名貴法了全未接得此眼  
子のしやうの所新涼神頼  
色以清通是依余之為中乞  
心無規之村家赤為しを新  
厚言台手をるしを中

七  
 五  
 十  
 下  
 五  
 下  
 五  
 下

小  
 及  
 都  
 三  
 集  
 居  
 河  
 之  
 介

関  
 津  
 志  
 東  
 林  
 寺  
 東  
 林  
 寺  
 東  
 林  
 寺

伊東藍田

名龜年字龜年一號天遊館通稱金藏又稱  
 善右衛門江戸人文化六年七十六卒

全

山  
 之  
 集  
 初  
 二  
 稿  
 式  
 部  
 為  
 記  
 是

山  
 之  
 集  
 初  
 二  
 稿  
 式  
 部  
 為  
 記  
 是

伊東藍田  
 名龜年  
 字龜年  
 一號天遊館  
 通稱金藏  
 又稱善右衛門  
 江戸人  
 文化六年  
 七十六卒

廣まゝキハコ好キ 上並 何也 一句 中  
序のこゝに云ふ。あつた  
けいげんの 何れに 居る 也  
多く ありし 也

五月廿九日

猪狩の 文を 寫す 也  
用紙 草を 寫す 也

